

はじめに

循環ワーカー養成講座は、環境問題と循環型社会に関する基礎的な知識と新しい視点を提供する年6回の連続講座です。IPCCの第四次評価報告書が発表された2007年度のテーマは『気候変動とサステナビリティ』としました。

スタートして4年目となり、いままでに増して多彩で充実した講師陣に加え、今年度から環境省の後援もいただけたためか、6回とも定員を上回る受講のお申し込みをいただきました。窮屈な中での受講、あるいは定員に達して受講がかなわなかった方には、心からお詫び申し上げます。

気候変動・温暖化は、いままさに差し迫った人類と地球生態系の危機であります。IPCCの統合報告書も、今後20～30年間の緩和努力と投資が鍵となるとしています。しかし、京都議定書の約束達成、そしてポスト京都議定書に向けて取り組みについて日本政府及び産業界の動きがあまりに鈍いことに、落胆と焦りと怒りを感じている方は少なくないと思われます。本講座を受講された方は、さらにその感を強くしたのではないのでしょうか。

循環型社会研究会のセミナー、講座では、科学的事実に基づいた情報を客観的な立場からできるだけ冷静にわかりやすく伝えていただくとともに、具体的に何をなすべきかについても示唆をいただくよう努めています。今回講師を務めていただいた方々の共通する示唆は、この気候変動に対しては、市民、事業者、政治家、行政、学者・研究者などあらゆる主体の参画と努力、そして環境技術の革新だけでなく抜本的な経済社会システムや価値観、生き方の変革をもって対応することが必要ということだったと思います。

循環型社会研究会がめざしてきた「自然生態系と調和して発展する未来世代にとっても維持更新が可能な社会」のあり方は、気候変動対策とのかかわりにおいては、「低炭素社会」というビジョンで語られはじめています。来年度の循環ワーカー養成講座は、『低炭素社会のつくり方』をテーマにしての開催を予定しています。また、多くの方にご参加賜れば幸いです。

この記録集の作成にあたって各講師には、不備の多い記録原稿に丁寧に手を入れていただきました。この場を借りて、改めて心から御礼申し上げます。

2008年2月

特定非営利活動法人 循環型社会研究会
事務局担当理事 久米谷 弘光